

図書館探偵団 うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ていがくねんむ ねん はるごう
低学年向け 2026年 春号



発行：とぎつちょうりつとぎつとしよかん

うちどく 家読とは

かぞく みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。

かぞく みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

かぞく おなじ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUKO



『まこちゃんとコトバロボ』

村上 しいこ//作 たんじ あきこ//絵 (佼成出版社)

こくご べんきょう きら 国語の勉強が嫌いなまこちゃんは、おばあちゃんが買ってきたドリルをまだやっていない。そんなまこちゃんにおばあちゃんが次に買って来たのは、国語のことならなんでも教えてくれる“コトバロボ”。ドリルも宿題もコトバロボが全部やってくれて、らくちゃん！と思っていたけれど…。



『へんかしら そうかしら』

内田 麟太郎//作 高部 晴市//絵 (鈴木出版)

わたしたちが知っている言葉が、知らない姿になっている!?

“雲 “のように空に浮かぶ “蜘蛛” や、“象” の銅像。

これってへんかしら？ そうかしら？

ことばあそびが楽しいユニークな発想の絵本です。言葉の意味を考えると、考えるきっかけにもなりますよ。



『図書館探偵団』

野口 武悟//監修 (岩崎書店)

みんなは図書館について、どれくらい知っているかな？ 「ほんがいっぱいあるところ」「本を貸してくれるところ」「おはなし会をやっているところ」。そうだね、みんなに見えているところは、そんなものかもしれない。だけど、図書館にはみんなに見えてないところが、たくさんあるよ。

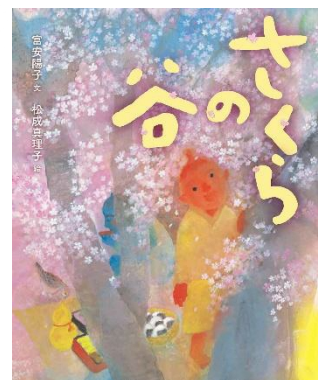
さあ、図書館を探検に行ってみよう！



『おじいさんと池』

マックス デュコス//作 木内 堯//訳 (名古屋外国語大学出版会)

いけ 池のそばに住んでいるおじいさんは、池を友達のように大事にお世話してきました。でもある日地主に出て行くように言われたおじいさん。池をじゅうたんのようにならんで、一緒に持って行くことにしました。いろんな場所に池を移動させてみるけど、なかなかうまくいきません。おじいさんと池が行き着いた先は？



『さくらの谷』

富安 陽子//文 松成 真理子//絵 (楷成社)

まんかい 満開のさくらにうめつくされた、ふしぎな谷。歌声が聞こえて近づいてみると、そこには色とりどりの鬼たちでした。鬼たちにまねかれて、お花見に参加したわたしは、かくれんぼにも誘われます。

かくれんぼの鬼になった時、わたしはあることに気がつくのです。

だれも知らない谷で体験したふしぎで大切な思い出。



『しらべる ちがいのずかん』

おかべ たかし//文 やまで たかし//写真 (東京書籍)

生たまごとゆでたまご、そこから見て、どっちがどっちかわかる？

ならんだミカン、あまくておいしいのはどれ？

そっくりさんをじっくりながめると、だんだんちがいが見えてくる。

いろんなちがいをかんさつし、かぞくみんなでかんがえるたのしさを。